

## 技術・家庭科学習指導案

日 時 平成 16 年 9 月 29 日 (水)  
学 級 1 年 1 組(男子 18 名、女子 19 名、計 37 名)  
指導者 教 諭 八 木 稔 和

### 1 題材名 技術とものづくり 「かな削り」

### 2 題材について

#### (1) 教材観

技術・家庭科の特性、魅力はなんといっても自分の作品を完成させた達成感や満足感を味わえることや、ものづくりを通して技術を習得するところにある。ものづくりの素材としての木材は、日本人に古くから利用されてきた素材であり、木材加工の中で、かな削りの作業は生徒の興味・関心が高く、また、うまくできたときの達成感や満足感が大きく、生徒たちには是非学ばせたいところである。

今年度の 1 学年は「技術とものづくり」の学習において、現在、新聞ラックを製作中である。古紙回収の際に役立てることで、家庭での利用価値があり、環境に対する関心も高められることを考え、新聞ラックを制作することとした。しかし、この教材では、製作工程の中でかな削りをする場面がない。その大きな原因の一つとして、技術・家庭科の授業時数が以前よりも少なくなっており、十分な実習時間の確保が難しく、製作工程の簡素化、スリム化が進んでいるためであると思われる。そこで、新聞ラックの製作からは一時離れてしまうが、是非かな削りを本校生徒に学ばせたいという願いから、かな削りの学習の場を設定した。これまでの授業者の実践の中で、かな削りはさせても、かなの調整までは生徒にやらせたことがなかった。その理由は、かなの扱い方が徹底できなかったことと、調整の難しさにあったが、この 2 点を工夫しながら、調整から作業までを生徒自身の手で行わせていきたいと考えている。

#### (2) 生徒観

1 学年の生徒は、ほとんどの生徒がかなを取り扱ったことがなく、今回初めて手にする生徒たちばかりである。ものづくりは意欲的に取り組む生徒が多く、毎時間楽しみながら制作に取り組んでいるところである。しかしながら、これまでけがき、のこぎり引きと進めてきた中で、技能的な能力差が大きく、作業の早さも違うため、進度差が大きくなっているのが現状である。今回の教材はいったん作品製作を離れてかな削りの作業を行うわけであるが、技能的に優れた生徒が作業の遅れている生徒を手伝ったり助けたりという場面を作ることによって、日常の授業の中でも助け合いながら学習していけるような態度を養って生きたいと考えている。

### 3 「基礎・基本の確かな定着」を実現するための指導構想

本校の研究主題「基礎・基本の確かな定着を図る指導方法の改善」を踏まえ、技術科では研究目標を「ものづくりから得た知識や技能を生活に生かしていける生徒の育成」とした。単なるその場限りの知識や技能の習得に終わらず、現在、あるいはこれから先の自分自身の生活に生かしてこそ技術の学習の意味がある。個々の生徒が日常生活で生かす場、生かす内容はそれぞれ違うわけで、それぞれの生徒が生かしていけるよう個に応じた指導の工夫が必要であると考えている。今回の題材では、個に配慮する視点としては、生徒の技能差、進度差に対し、教えあったり協力したりする場面を設定していきたい。また、個々の生徒が自分の目標を設定しながら作業を進め、目標に対する自己評価をしながら達成度をはかり、授業を進めていきたいと考えている。

4 題材の目標

- (1) 工具(かな)のしくみや取り扱い方がわかるようになる。(知識・理解)
- (2) 工具(かな)を正しく取り扱うことができる。(技能)
- (3) 安全に作業を進めることができる。(関心・意欲・態度)
- (4) 準備から後片付けまで、意欲的に取り組むことができる。(関心・意欲・態度)

5 題材の指導、評価計画(3時間扱い、本時2/3時間)

時	学習内容	評価規準				評価方法
		関心・意欲・態度	工夫・創造	技能	知識・理解	
1	かなのしくみや取り扱い方を知ろう	*準備、かたづけをきちんとできる。(毎時)		かなの正しい取り扱い方ができる。	かなの各部名称を理解している。	発言 観察 自己評価カード
2	かな削りの技を習得しよう(本時)	安全に留意し作業に取り組むことができる。		自分で刃を調整し、かな削りができる。		自己評価カード 教材(板材) 観察
3	板材の利用方法を考えよう	進んで活用方法を考えることができる。	活用方法を工夫して考えることができる。	構想図にかき表すことができる。		レポート 観察

6 本時の指導

- (1) 主題 かな削り
- (2) 本時の目標

刃の調整をしながらかな削りができる。(技能)

安全に留意し、作業に取り組む。(関心・意欲・態度)

かなの取り扱い方をきちんと守って作業をする。(関心・意欲・態度)

- (3) 構想

本時は、今年度作成している教材の中ではできなかったかな削りの作業を行う。かなの調整を行いながらの作業は時間的な問題や調整の難しさなどからなかなか困難であるが、本職の大工さんを「達人」として迎え、その技術を実際に観察し、個々の生徒に意欲をもって挑戦させていきたい。また、調整の技能には個人差が生じると思われるが、グループで助け合う場面を設けながら、上手にかな削りができるよう、支援していきたい。

- (4) 展開

段階	学習活動		指導上の留意点 *評価 個に配慮する視点	学習形態
	教師の動き	達人の動き		
導入 5分	1 前時の復習 かなの刃の調整法や、安全な取り扱い方などについて説明する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・かなの刃の調整の方法(刃の出し入れの仕方、刃の出し加減については前時に一通り学習しておく。</li> <li>・かなの置き方について確認する。</li> <li>・達人の削った削りくずを提示し、意欲を高める。</li> <li>個々の生徒の達成目標を設定する。</li> <li>*自分の達成目標を設定できたか。(観察)</li> </ul>	一斉   個
	2 学習課題の把握 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">かな削りの技を習得しよう。</div>			
	3 個人目標の設定 本時の自分の到達目標を設定させる。			

<p>展 開</p> <p>37 分</p>	<p>4 かな削り実習 (調整編)</p> <p style="text-align: center;">調整 かな削り</p> <p>うまく削れる(小) うまく削れない(多)</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">調整ができてもうまく削れない生徒が多いと予想される。</p> <p>調整の支援をする。 グループ内での支援を指示する。</p> <p>5 達人の技を観察</p> <p>達人を紹介し、達人に注目させる。 かな削りをやってみせる。 達人ワンポイントアドバイスを伝える。</p> <p>6 かな削り実習 (仕上げ)</p> <p>達人に質問をとったり、かな削りの大切なポイントを整理する。 削り方の支援活動をする。 削りくずの片付けの指示を出す。</p>	<p>生徒が一斉にかな削りができるような作業隊形を指示する。 どうしてもうまく調整できないものは指導者で調整して作業を進めさせる。</p> <p>* 安全に留意し、作業しているか。(観察) * 意欲的に作業しているか。(観察) * グループで助け合いながら作業しているか。(観察)</p> <p>・調整はうまくできても上手に削れないのはなぜか考えさせる。(うまく削れた生徒にどうすればうまくできたか発表させる)</p> <p>・生徒を一箇所に集めて、どうすれば上手に削れるのか考えさせながら観察させる。 ・かな削りのコツ(削り方)を達人流に話してもらおう</p> <p>* 達人の話を理解しているか(観察)</p> <p>・達人に質問はないか確認をとる。 ・自分の削ったけずりくずの中で究極の1枚を残す。 ・グループ(6~7人)ごとに「今日の名人」を一人選ぶ。</p> <p>* 安全に留意し、作業しているか。(観察) * 意欲的に作業しているか。(観察) * グループで協力しながら作業、片づけをしているか。(観察)</p>	<p>一斉 グループ</p> <p>一斉</p> <p>個 グループ</p>
<p>終 末</p> <p>8 分</p>	<p>7 本時のまとめ 目標の自己評価 発表</p> <p>8 達人の講評 意欲面、技術面の両面から話す。</p> <p>9 次時の予告</p>	<p>・自分の目標に対する自己評価を書かせ、グループごとの名人に発表してもらおう。</p> <p>* 本時の自己評価ができているか。 (自己評価カード)</p> <p>・生徒の活動の様子の評価、技術的なアドバイスをもらう。</p>	<p>個 一斉</p>